史料解説

2018 年 8 月 3 日
一橋大学剣友会　矢島博之

本史料は、1925 年初版発行の『日本剣道史』（発行者：東京商科大学剣道部、発売所：水心社）を、著者であり本学剣道部初代師範の山田次朗吉先生自らが、改訂のために作成したものであるとされている。

本史料がその後の改訂にどのように反映されたのかについて、現在までの調査によって判明したことを報告する。

１）初版以降の『日本剣道史』の発行状況

初版以降の『日本剣道史』の発行状況について、1976 年版の奥付では、次のように記されている。

大正十四年五月一日	第一刷	（以下「初版」）
昭和三年四月	第二刷	（以下「1928 年版」）
昭和十八年六月二十日	第八刷	（以下「1943 年版」）
昭和三十五年五月二十日	第九刷	（以下「1960 年版」）
昭和五十一年九月一日	第十刷	（以下「1976 年版」）

２）1943 年版、1960 年版、1976 年版における改訂の実態

1976 年版の奥付に記されている版のうち、1928 年版をのぞく３つの版については入手できたので、それぞれが本史料によってどのように改訂がなされているのかを、本学附属図書館学術情報課の村井しのぶ氏に確認していただいた。その結果をまとめたのが、以下の表である。これによって次のことが判明した。

①1943 年版は、本史料の修正内容を 8 割近く反映している。

②1960 年版は、1943 年版で修正されている箇所であっても修正されていない箇所が多数ある。また、改訂がなされた箇所で、1943 年版とは異なる書体が多く用いられている。これらのことから、1960 年版発行の際の改訂に使用されたのは、1943 年版より前の版であると思われる。

③1976 年版は、本史料の修正内容を約 9 割反映している。

表　本史料による改定の指示と各版の改訂内容

（2018年7月附属図書館村井しのぶ作成）

付箋No.	ページ	改訂の指示内容	1943年版	1960年版	1976年版
1	6p	山内運眞→山内蓮眞	○	○	○
2	7p	戸崎ヶ熊太郎及歴代→戸ヶ崎熊太郎及歴代	○	○	○
3	29p	頡頏→頡頏	○	○	×
3'	72p	屢ゝ々之を→屢々之を	×	×	○
4	103p	乗人れ、→乗入れ、	○	×	○
5	123p	平山士龍→平山子龍	○	×	○
6	123p	揚げたのもを→揚げたるのは	○	たものは	○
7	128p	長野が一言にて、誠蔵を屈せし→長野が一言にて、武蔵を屈せし	○	○	○
8	129p	實事のず如く→實事の如く	ず如く記せど	ごとく記せど	○
8'	161p	術は曩は述べた→術は曩に述べた	○	○'	×
9	167p	只脇にの指みなり→只脇に指のみなり	×	○	○
10	171p	諸藩に学校痒序を設立→諸藩に学校庠序を設立	○	○	○
11	213p	福塞三郎衛門門親重→福塞三郎右衛門親重	○	○	○
12	222p	其後かもに→其後のこと	○	其後に	○
12'	222p	し汝の如き表裏を→しかも汝の如き表裏を	×	○'	×
13	224p	直に法心を先に→直に心法を先に	○	×	○
14	224p	熊利→能利	○	×	○
15	230p	其子彌次右衛清信、→其子彌次右衛門清信、	○	○	○
16	256p	その規矩は實地か庭ら→その規矩とは實地から	×	×	○
17	257p	試合が面白くなつて中すると→試合が面白くなり熱中すると	面白くなって熱中すると	面白くなって熱中すると	○
17'	257p	上手に熱なる者だと→上手になれる者だど	上手になる者だと	上手になる者だと	○
18	260p	目録。免許。銘剣傳と規定→目録。免許。命剣傳と規定	○	×	○
19	263p	叮嚀親切を嚴めたので→叮嚀親切を極めたので	○	×	○
20	285p	一本目の如へ首へ付る→一本目の如く首へ付る	○	○	○
21	317p	武藝者が訪づれるのは→武藝者を訪づれるのは	○	○	○
22	325p	といふ嫡者の男である。→といふ者の嫡男である。	○	○	○
23	326p	先頭には立て→先頭に立て	立って	立って	○
24	330p	是を外にして人道である→是を外にしての人道である	×	×	○
25	415p	帝に宮庖に出入す→常に宮庖に出入す	○	×	○
26	426p	朝比奈丹左衛門→朝比奈半左衛門	○	×	○
27	429p	慕屋彌次右衛門→幕屋彌次右衛門	○	×	○
28	439p	禁解け京都遊覺に→禁解け京都遊覧に	○	×	○
29	440p	二年二年二十三日→二年二月二十三日	○	×	○
30	446p	十二月六月廿三日→十二年六月廿三日	○	×	○
31	459p	越中の人徳大家に仕へ→越中の人徳大寺家に仕へ	○	×	徳大寺に仕へ
32	469p	徒に授く常は王室の→徒に授く常に王室の	○	×	○
33	470p	六間橋の途上に→六間堀橋の途上に	○	○	○
34	478p	正四位を追贈せちる。→正四位を追贈せらる。	○	○'	○
35	487p	字は士龍、兵原と→字は子龍、兵原と	○	○'	○
36	501p	松平金次郎正篤歿。→平平金次郎正篤歿。（「再調ヲ要ス」とあり）	平松	平松	○
37	527p	元年四年廿五日→元年四月廿五日	○	○'	○
38	529p	改葬せらる。→圓通寺に改葬せらる。	○	○	×
39	530p	三月十二月廿七日→三年十二月廿七日	○	○'	○
40	563p	平山行藤潜→平山行蔵潜	○	○'	○
41	579p	磯貞治郎と→磯貞三郎と	磯貞三	○'	○
42	581p	歳藤直之進→武藤道之助	武蔵道之助	武蔵道之助	○
43	582p	仙臺館養賢堂→仙臺藩養賢堂	○	○'	○
44	584p	（赤城俊三）五三〇→五〇一	○	○	○
45	584p	朝比奈丹左衛門→朝比奈半左衛門	○	○'	○
46	585p	磯貞治郎→磯貞三郎	○	○'	○
46'	585p	（磯貞三郎）二六三一四二八→二六三	×	×	○
47	585p	市川豊三→市川豊二	○	○'	○
48	585p	（伊庭軍兵衛）二八九一五一四→二八九	○	○	○
49	587p	上坂半右衛門→上坂半左衛門	○	○'	○
49'	587p	（河本貫之進）五一二→五一三	×	×	○
50	588p	（木内案左衛門）一九四→一九五	○	○'	○
51	588p	影山善兵衛→影山善賀	○	○	○
52	589p	窪興右衛門→窪興左衛門	○	○'	○
53	591p	關口彌右衛門→關口彌左衛門	○	○'	○
54	591p	杉本備前守→松本備前守	○	○'	○
55	591p	鈴木源次郎→鈴木彌次郎	○	○'弥	○
56	592p	高橋合泫→高橋合法	○	○'	○
57	592p	（千葉多門四郎）三四四一五一二→三四四	○	○	×
58	593p	富田重康→富田秀康	○	○'	○
59	596p	（藤川彌司郎右衛門）二六一一四七〇→二六一一四六九	○	○'	○
60	596p	（藤川次郎四郎）四七〇→四六九	,,六九	○'	○
61	596p	（藤川整齋）三二三一五一二→三二三一五一三	○	○'	○
62	596p	（細川幽齋）三九五→三九六	○	○'	×
63	596p	吉田舎人→古田舎人	○	○'	○
64	597p	（森島市助）二四二→二四六	○	○	○
65	598p	（柳生宗在）一七七一四二八→一七七一四二九	○	○'	○

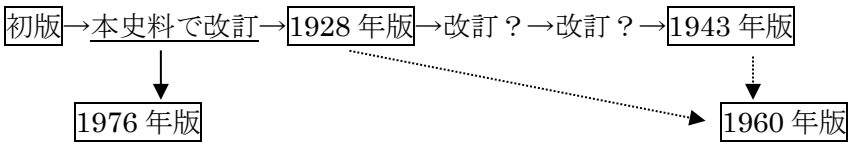
注（1）○は改訂がなされていること、×はなされていないことを示す。
（2）改訂がなされているが、表現が異なる場合は、その箇所を書き出した。
（3）1960年版の○'は、改訂がなされているが書体が1943年版とは異なることを示す。

３）1976 年版に関するインタビュー調査

1976 年版の出版に携わったデジプロ社の斉藤安弘社長を 2018 年 7 月 3 日に訪問して、インタビューを実施し、「1976 年版は、山田先生のお孫さんである山田秀子様宅で発見した紙型をそのまま使用して出版した。この紙型は、初版の紙型と思っていた」との証言を得た。（なお、1976 年版の出版については、『一橋剣道部八十年史』p.440 にも記述がある。）

４）現時点での結論

今回の調査結果をふまえると、本史料による改訂については、あくまで仮説であるが、次のように整理できるのではないかと思われる。



５）残された課題

1928 年版（第二刷）および第三刷～第七刷の存在、1960 年版の改訂の経緯等について、さらに確認が必要である。